NPO 法人　相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相双COCOROニュースなごみ

第 17 号　H29 年 9 月吉日
発行元　KCN　ニュースレター　編集部
ホームページ　http://soso-cocoro.jp
Facebook ページ　https://www.fb.me/cocoro.nagomi

NPO 法人の通常総会が終了しました

当法人の通常総会も平成 24 年にはじまり無事 6 回目を終えることができました。今回は理事と監事の交代があり、NPO 法人コーヒータイムの橋本様が理事に、福島県立医科大学心のケアチーム時代にお世話になった元養護教諭の只野様と公立相馬総合病院の鈴木様が監事となりました。思えば平成 23 年 5 月 3 日夜、浪江町から相馬市内に避難していた橋本様の借り上げ住宅に、全国の医療保健福祉従事者が集まり話し合ったことが全ての始まりでした。その当時は、今のような形になるとは想像もできず、現在まで、走り続けてきたように思います。5 年後も法人名に恥じないよう新しい精神医療・保健・福祉を創造できるように努力していきます。（米倉）

なごみ 5 周年感謝祭を開催しました！

今年 1 月の法人設立 5 周年を記念し、なごみに関わるみなさまを始め地域の方々をお招きして、5 年間の活動報告＆交流会を企画しました。日々の訪問やサロン活動で作った個性的な作品たちが会場を彩り、地元名産品の試食や福祉事業所の商品販売も行いました。

なごみの懐かしい写真の数々になごみスタッフもくぎ付け！

地元名産品を試食中

「なごみ 5 年間のキセキ」と題したポスターの懐かしい写真の数々に、なごみ設立当初の思い出話にも花が咲いていました。カフェやゲームコーナーも笑い声があふれ、なごみに関わってくださっている地域のみなさまとゆっくり過ごす時間となりました。

日頃からなごみを支えてくださっている会員や支援者のみなさま、当日お手伝いくださったボランティア養成講座卒業生のみなさま、男性の集いのメンバー、そして当日会場にお越しくださったみなさま、本当にありがとうございます。そしてこれからもなごみをよろしくお願いいたします！（大谷）（なごみ 5 周年感謝祭はフィランソロピー協会の助成金事業により JCB の支援を受けて開催されました）

先生と学生の子弟対決！？

「5」のつく日。JCB で復興支援

記録誌編集委員の頑張りは涙なしでは語れません…！

なごみの 5 年間の活動をまとめた
「5 年間の記録
～なごみのキセキ～」
がついに完成しましたー！！

◆新理事のごあいさつ◆

橋本（はしもと）　由利子（ゆりこ）

皆様こんにちは。このたび理事になりましたNPO法人コーヒータイムの橋本由利子です。コーヒータイムは元々浪江町の事業所でしたが、福島第一原発事故により、二本松市で事業を再開しました。二本松近隣の障がい者も受け入れて今日に至っていますが、今年３月に浪江町が一部解除となり、浪江町に帰還を希望する利用者も現れ、コーヒータイムも浪江町内に出張所を開設しなければという気持ちです。微力ですが相双地区のため頑張ります。

◆新監事のごあいさつ◆

只野（ただの）　喜代美（きよみ）

みなさま、はじめまして。初めて監事の役となりました只野と申します。生まれは愛媛県宇和島市ですが、福島で生活している期間の方がはるかに長くなりました。相馬市近隣の高校で養護教諭をしていました。なごみさんには、そのとき大変お世話になりました。退職して１年ちょっとです。少しでも、何かのお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

◆新監事のごあいさつ◆　鈴木（すずき）　博（ひろし）

平成 29 年度より監事に選出された鈴木です。当法人とはご縁がありまして、私は現在公立相馬総合病院に勤務しておりますが、平成 23 年３月の東日本大震災発生の際、大川理事長をはじめ多くの法人スタッフとともに、精神疾患患者への医療提供、被災され避難生活を余儀なくされている方々への支援に関わったことが昨日のことのように思い出されます。今後は、法人が行う各種事業が円滑に展開できるよう、微力ではありますが法人の一員として与えられた職務に精励したいと考えておりますので、皆様のご指導をお願いします。

会員のみなさま　平成 29 年度の会費納入をよろしくお願いいたします

会報発送時点で、平成 29 年度の会費が未納の会員の方には振込用紙を同封しております
すでにお支払いくださった方に行き違いにて届いた際にはご容赦ください

1．正会員　　年会費　一口 10,000 円
2．賛助会員　年会費　一口　3,000 円

会費の振り込み方法：郵便振込
口座番号：02260-0-126825
口座名義：特非　相双に新しい精神医療保健福祉をつくる会

新規会員募集中です！

会員になってくださった方には、
定期的に会報や現地の情報を送らせていただきます。是非ご検討下さい！

【新規会員のお申し込み方法】
会員種別（正会員または賛助会員）・氏名・住所・所属先・職業・電話番号・メールアドレスを明記の上、申込書を郵送または FAX してください。なごみホームページから申し込むこともできます。
http://soso-cocoro.jp/

お問い合わせ　なごみ相馬事務所
〒976-0016
福島県相馬市沖ノ内 1 丁目 2-8
電話　0244-26-9753
FAX　0244-26-9739
アドレス nagomi@soso-cocoro.jp

911 家族会との国境を越えた交流会

アメリカ同時多発テロの遺族である 911 家族会との交流会も今年で 6 回目。昨年までは仮設住宅で行われていた交流会ですが、今年は北原復興住宅で行われ、震災からの復興を感じました。当日は住民と 911 家族会の方あわせて 50 名以上の方々が集まって下さり、大盛況。浪江町漁協で働いていた住民の方々がふるまってくれた浪江名物の鮭汁を食べながら、時間の経つのも忘れて、911 のこと、311 のことを熱く語り合った一日となりました。（田中）

（911 家族会と北原復興公営住宅住民との交流会は、米国日本人医師会、米国ロータリークラブ、復興庁心の復興事業、世界の医療団の支援を受けて開催されました）

今年もボランティア養成講座を行いました

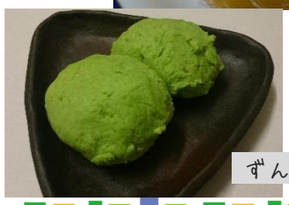
今回は６名の参加者がおり、「役に立ちたい」という熱い思いを胸に秘めた方々ばかりでした。精神疾患の理解や関わり方なども講義内容にありましたが、当事者の体験談や医療機関見学等を通し、回復することを理解することが出来たとのコメントを頂きました。講座を重ねていく中で受講生からは「何が出来るか悩んでいたが、やれそうな気がしてきた」との言葉があり、今後は精神障がいを持つ方の生活を一緒に支える仲間として期待できそうです。HP に講座の報告が載っています。是非ご覧ください。（木島）

「5」のつく日。JCB で復興支援

（この講座はフィランソロピー協会の助成金事業により JCB の支援を受けて実施しました）

懐（なつ）食・心のふるさと復興プロジェクト始動

かぼちゃまんじゅう



ずんだもち

高齢者のサロンでは、懐かしい食の話題はとても盛り上がります。子どもの時に食べた懐かしい味は、一緒に食べた家族の顔や地域の原風景まで思い起こさせます。しかし、震災で家族や地域がバラバラになり、世代間の文化の伝承の機会が減りました。また、放射能の影響で山菜などの身近な自然の恵みが食べられなくなりました。そこで、地域の高齢者を中心に食についてのエピソードを聞きながら、レシピ集を作るプロジェクトを始めました！若者が昔ながらの食文化に触れる機会や地域や世代を超えた交流につながっていけたらと願います。（伏見）

（この事業は復興庁の心の復興事業の支援を受けて実施しています）

アウトリーチ事業より

アウトリーチ事業です。東北会病院より、２名の職員をファシリテーターとしてお迎えし、アルコール依存症者についての事例検討会を行いました。「ご本人、そして家族の良いところ探しをしましょう！」とのファシリテーターの助言から、沢山のストレングスを見つけることができました。また、良いところ探しの過程で、多職種集まったチームならではの多様な意見を持ち寄ることができたことなど、自分たち支援者側の持ち味・良さにも改めて気づく収穫がありました。（柳澤）

アルコールプロジェクト（アルプロ）より

「アルコール関連問題の勉強会」

なごみでは地域のアルコール対応力を強化するために、医療専門職や地域の関係者と一緒に研修会・事例検討会を実施しています。アルコールは私たちにとって身近なもので簡単に手に入れることが出来ますが、時には大きな問題をもたらすことがあります。そんなときに私たちは地域の中でどのようにしてかかわり、どう治療に結び付けることが望ましいのかということを考えていきたいと思います。（工藤）

地域の様子

飯舘村

平成 29 年８月 12 日(土)に飯舘村に「いいたて村の道の駅までい館」がオープンしました。“までい”とは「ゆっくり」「丁寧に」「時間をかけてじっくりと」という意味があるそうです。花の展示販売ホール、道路情報提供施設、レストラン、コンビニが入っています。地元の方はもちろん、工事関係者の方も大勢利用しています。道を挟んで向かい側には休耕田にたくさんのひまわりが咲いていました。飯舘の山と空を満喫できる場所です。（西内）

飯舘村のひまわり

飯舘村の道の駅 OPEN！

浪江町

大部分の避難指示が解除されて５ヶ月。町内では花が咲いている庭も増え、災害公営住宅の工事や入居も進んでいます。なごみも浪江町社協が開催する町内サロンの手伝いを始めました。体を動かしたりおしゃべりしたり。直接の知り合いではない方も、みなさんどこかで繋がっていてびっくり。震災前の浪江を知らないスタッフにもいろいろ思い出話をしてくださり、時々しんみりしながらも温かい時間が流れるサロンです。（足立）

浪江町の災害公営住宅

浪江町内サロンの様子